

.....
○議長（堀江 政武君） 昼食休憩とします。再開は午後1時からとします。

午前11時40分休憩

.....
午後0時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

8番、小田昭人君。

○議員（8番 小田 昭人君） 昼食も終わり、眠たい時間帯だと思いますけど、しばらくの間、御辛抱願いたいと思います。

また、昨日の議長選挙において、新しく就任されました堀江議長におかれましては、手腕をいかに発揮され、御活躍を期待をいたします。

また、5年間議長として君臨していただきました作元議長に、御労苦に敬意を表したいと思います。

そして4月1日の組織改正により、平山しまづくり戦略本部長以下13名の部長等が紹介がありました。財部市長の片腕として対馬市発展のため御尽力賜ればと思っております。

それでは、通告に従い、私から1点に絞り、今回は質問をさせていただきます。

対馬市が誕生して早いもので、10年が過ぎ去ったのでありますが、合併当時の住民基本台帳の人口は4万871人、世帯数は1万6,014世帯、平成26年4月末の住民基本台帳の人口は3万3,250人、世帯数は1万5,301世帯で、この10年間で人口が7,621人の減少、世帯数も713世帯減少しています。平成26年4月末の豊玉町の住民基本台帳の人口が3,580人、上対馬町の人口が4,040人で、豊玉町及び上対馬町の人口を合わせると7,620人となります。極端な言い方をしますと、この10年間で、豊玉町及び上対馬町に市民がいなくなったということになります。市長、この状況をどう感じているか、率直にお伺いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 唐突な質問なものですから、ちょっとドギマギしておりますが、今おっしゃられた10年前の人口と今の人口と比べたときに、豊玉、上対馬の人口がなくなったに等しいんだということではありますが、この10年間、7,600人の減ということで、ある意味、地方自治体としての範囲を超えた大きな力がここには、私は働いてるというふうに思われてなりません。こちらで、やれる範囲というのは、本当限られておるわけですし、基本的な日本経済の大きな流れの中で人の流動も起こっておりますし、また経済のみならず、今までのどのようなまちづくりをしていくのか、しまづくりをしていくのかというふうなことの理念とか、価値観という

ものの創造というのがそこになかったがために、これは対馬のみならず、日本全体の地方と申しますか、日本全体の問題なんだろうと思っております。先ほどの質問の中でもありましたように、日本創成会議において1億人を割り込むというふうな見込みが立っております。最近の政府の報道では、1億人を割り込まさないための政策展開を考えていかなくては行けないと、やっとな、今までのこの状況というのに、政策として打ち込んでいくというふうなことだというふうにお思っております。

国が始めようとしております「地方の元気創造プラン」ということ、これは5月20日に私ども長崎で総務省の課長さんの話を聞いて、改めて感じて、私どもも職員に指示を出しておるところでございますけども、2020年、東京が、少子高齢化が加速して行って、高齢化社会に、東京、神奈川、大阪の大都市圏が落ち込んでいくということは、去年の秋ぐらいから、ずっと職員にも言っておりましたけども、そのときに、やっとな、国のほうは地方のほうに新たな施策とか、価値を創造していかないと、日本全体が落ち込んでいくというふうな発想で、そう言っておられるというふうに感じておりますので、そのあたりとの連動をしながら、今のこのゆゆしき問題にしっかりと対面していきたいというふうにお思っております。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 8番、小田昭人君。

○議員（8番 小田 昭人君） 対馬市になってよかったと実感している市民は何割おられますでしょうか。私は、あまり高い比率ではないと思っております。3月の卒業式が終わると、中学校、高校の卒業生が対馬を離れ、親元を離れ、島外へと転出していきます。少子高齢化はますます進み、高齢化率は26年3月末で、31.8%となっており、65歳以上の人口が3人に1人の割合になるのは目の前であります。

そこで、私は、大胆な発想のもと、若人に夢と希望を少しでも持ってもらうため、対馬市に看護専門学校の新設を国、長崎県に働きかける考えはないか、お尋ねいたします。

学校教育法では、専修学校には、高等課程、専門課程、または一般課程を置くことになっており、さらに専修学校は国及び地方公共団体のほか、次に該当するものでなければ設置することができないことになっております。次に該当するものとは、医師会とか、医療法人などが該当するものと思われまふ。対馬市に新設するには、医師会、医療法人等の進出はまず無理かと私なりに思います。そして、自主財源の乏しい対馬市が設置しても運営が厳しいものと思います。そこで、国か、長崎県に働きかける以外に方法はないと思っております。

専門学校の設置は、大きく分けて2つの方法が考えられるものと思います。

1つの方法は、今、存在すら危ぶまれている豊玉高等学校を、仮称でありますけど、対馬中央看護学校に改め、准看護科2年、看護科3年の修学年数5年にすることで、国、長崎県に働きか

ける考えはないか。

2つ目は、対馬の3つの高等学校を現在のままで、正看護師専門学校を国に長崎県に働きかけ、新設する考えはないかをお尋ねします。

まず、1つ目について、市長にお尋ねいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目の専修学校、これらを国・県、もしくは、医療、医師会とか、あ
あいうのは難しいだろうから、国・県に働きかけてはどうかということではありますが、確かに、
看護師さんとか、医療技術者とか、さまざまな人たちが不足をしてる。もしくは偏在化してると
いうのが今実態であろうかと思えます。そういう意味において、また、この対馬の子供たちを呼
びとめる、もしくは呼び込むために、そのような施策というのも一つの案だというふうに思いま
す。私どもの財源が乏しいという中では、地方公共団体では難しいだろうということで、こちら
の立場までわかっていただいて、ありがたく思うところであります。

○議長（堀江 政武君） 8番、小田昭人君。

○議員（8番 小田 昭人君） 長崎県の看護師、准看護師の専門学校の状況を調べてみますと、
正看護師専門学校が13カ所あります。それから准看護師専門学校が6カ所。県立五島高等学校
は、普通科とか、商業科とか、そういう課程で、准看護課程3年、そして正看護課程には高校卒
業以上が入学でございますので、おそらく、どこかの専門学校に行って正看を目指しているもの
と思っております。

それから、対馬3校の卒業者を3校別に調査をいたしました。26年3月卒業で、対馬高校が
卒業生149名うち正看進学が16名、豊玉高校が21名の卒業生で正看進学が1名、上対馬高
校が41名の卒業生で正看進学ゼロ、合計で17名が正看へ進学をしているもようでございます。
その1年前の25年3月は、対馬高校が185名の卒業に対しまして12名が正看進学、豊玉高
校が28名卒業で正看ゼロ、上対馬高校が46名卒業で正看進学4名、3年前の24年3月卒業
で、対馬高校卒業生175名うち正看進学13名、豊玉高校が36名卒業で正看進学ゼロ、上対
馬高校が50名卒業で正看3名ということで、この3高校で、年間16名ないし17名。よって、
対馬を離れ、よその高校で進学され、そして正看をされている方もおろうかと思えますので、こ
の数字を上回るものと思っております。

それから対馬市全体の中学校の卒業生が、26年3月が318名、25年3月が310名、
24年3月が312名となっております、この四、五年見ても、300名はくだらないだろう
という数字であります。

余談になりますが、ちょうど1カ月前の5月12日、京都清水寺の森貫主。この方、年末にこ
としの日本を漢字であらわすということで、いつもテレビに出ておられます。その方の長男森住

職さん。清水寺は檀家がないお寺で有名でございますけど、年間500万人の観光客でにぎわっているそうでございます。

それから、同じく京都東本願寺の住職さん、特定非営利活動法人国際医療福祉人材育成機構の理事長さん、税理士など、職種さまざまの方が7人対馬に訪れ、ある人から私も招待を受けまして、懇親を深める中で、対馬を何とかしたいという力を貸すということで、私も感銘したわけがあります。

余談になりましたが、市長、こういう人たちがおられるということの頭の片隅にでも覚えていただければ幸いです。

市長、今度、中学校あるいは高校生にアンケートでもとって、その調査結果で、国・長崎県に看護専門学校、あるいは豊玉学校を専門学校にする考えはないか、お尋ねをいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 豊玉だけの話ではなくて、確かに3校の存続ということ、何らかの形で残していくということが地域の活性化にも当然つながっていくことでありますし、子供たちも親元離れて遠くでというのも、ある意味、つらい一面もあろうかと思っております。そういう意味において、島内において、そのようなニーズがあるかどうかということは調査する必要があるかと思っております。

実は、昨日、豊玉高校の存続を願っております豊玉高校支援会議の方が、確か6名だったと思っておりますが、お見えになりました。そういう方たちのお話し合いの結果として、今おっしゃられるような部分とか、福祉系の学校とか、そういうものに徐々に変換させていくなり、そういう、もしくは色を持たせるなり、ということはどうもできないかというふうな御相談もあったところであります。しかし、そういういままでも、今おっしゃられたように、実際子供たち、もしくは親御さんたちのニーズがあるのかというふうなことも、しっかり受けとめなくてはいけないと思っております。

先ほど、高校卒業後の進学先で、正看の学校に行かれた子供さんたちが16名から17名というお話がございました。現在、島外の5年制の学校に行ってる、中学校卒業と同時にいる子供たちが5年生までですので、確か、これも、数字は一緒になりますが、17名いたと思えます。一学年で3名から4名程度の子供たちが島外の鹿児島とかいうふうなところに行っているという話も聞いております。最低レベルでのそのあたりの人数は確保できるのではないかと思います。少なくとも、学校としての経営上は、その義務教育法で言う40人とかいう部分をできればクリアするにこしたことはない。今、五島での3年の学校についても、20名を割り込んでいるというふうな状況でありますし、また看護師さんとか、介護福祉士とか、そのあたりのニーズが本場で、これは出口ベースの話ですね。そちらもどれだけつくり込めばいいのかと。それは介

護保険計画との兼ね合いもあろうかと思ひます。それらを早急にアンケートばかりではなくて、調べ上げる必要があろうかと思ひております。その上で、方向性を見定めて、国なり、県なりにそのあたりの話をしていくということもすごく大事だと思ひます。

また、この看護学校の場合、どうしても専門科目になってくる。専門科目を教える方々が、ドクターが近くにいるならば、もっともそれがいいんですが、なかなか、そのあたりとの連携というのを、単独でやっていくというものの難しさもあるんじゃないかと。病院併設のそういう看護学校であれば、すごくドクターも動きやすいとかいうこともあろうかと思ひます。そういう状況も十分に勉強させていただきながら、方向性を見出せばというふうには思ひております。

○議長（堀江 政武君） 8番、小田昭人君。

○議員（8番 小田 昭人君） 今、市長が言われましたように、ほかの学校で、正看、准看を指している生徒もおられるということで。准看の場合は就職になって、対馬3校は、准看に行ったかどうかは把握はしていないと。正看の場合は、あくまで進学という取り扱いをしているそうであります。

それから、いつはら病院と中対馬病院に看護師の状況を聞きますと、いつはら病院が現在、長崎、福岡から6名の看護師を派遣していただいている。それから中対馬病院も全く一緒です。6名を派遣をしていただいております。昨日、厚生常任委員長の協本委員長も言われましたように、企業団についても看護師不足は不可欠だということで、あの手この手でされているようにあります。

市長、アンケートをとってみましようや。そして希望をとって、大胆な発想かもしれませんが、夢と希望を与えてもらいたいと思ひます。

1本に絞りましたので、市長がアンケートあわせてとっていただくということでございますので、さらに議論を深めて、また次回質問をしたいと思ひます。

約30分ぐらい余りますけど、私の質問はこれで終わりたいと思ひます。どうもありがとうございます。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、小田昭人君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は1時35分とします。（発言する者あり）40分がいいですか。それでは変更します。40分から再開します。

午後1時20分休憩

午後1時38分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

15番、大浦孝司君。